

GDP ギャップ安定化に向けた金融政策： バブルに対するフォワード・ルッキングな政策の検証

舟島義人*・宮原勝一**

要旨

本稿では、バブル的な需要ショックを背景とし、「期待需要ショック」をモデルの変数として明示的に扱うことを試みた。その結果、持続的な需要ショックが発生した場合を想定したシミュレーションを行うことにより、金融政策当局が平常の金融政策ルールに基づいた政策と「フォワード・ルッキング」な政策を行った場合の比較・検討を行った。シミュレーション結果は、「フォワード・ルッキング」な政策に基づいた方が、金融政策が GDP ギャップ・物価の安定に寄与することを示すものとなった。また、Structural VAR モデルによる実証分析では、日本における 90 年代以降の金融政策が、景気（GDP ギャップ）・物価に対するコントロール力を持ち得なかったことが明らかとなった。理論モデルによるシミュレーション結果と合わせて考えると、バブル崩壊後において、より早期の大幅な金融緩和を行うことにより、金融政策の影響力を上げることができた可能性が示唆される。

*青山学院大学経済学研究科経済学専攻博士後期課程

**青山学院大学経済学部教授